

授業科目名 (英語名)	看護情報管理論 (Nursing Information Management and Processing)			
担当教員 (所属)	山内 一史 (看護学科)			
教育課程	看護学科関連科目			
開講年次	4 年前期			
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択 選択科目
資格対応				
授業のねらい・概要	情報テクノロジーの保健医療福祉への導入・活用の現状を分析し、将来を展望できる知識を学習する。			
学修目標	<p>アメリカの看護協会は、看護情報の活用のための新しい学問分野として生まれた看護情報学を、看護の専門領域の1つと位置づけ、1995年より専門看護師の認定を開始している。わが国でも、国策に基づく、医療現場の急速な情報化に伴い、医療の特性を踏まえ、最適な情報処理技術や理論にもとづき、最適な医療情報システムを導入し、医療情報を安全かつ有効に活用・提供することができる知識や技術を有する人材が求められている。このような人材の養成を目指して、日本医療情報学会は、2003年に医療情報技師能力検定制度を発足させている。この医療情報技師認定試験の内容は、多くの点でアメリカの看護情報専門看護師認定試験内容に酷似していることが知られている。</p> <p>そこで、この講義では、アメリカの看護情報認定看護師と同程度の情報能力を得ることを目標に、医療情報技師認定試験に受験可能なレベルの情報管理の知識を学習する。</p>			
授業の計画	<p>第1-4回 医療プロセスの知識 医療制度、病院における情報・ヒト・モノのフロー、診療プロセス、診療記録などを学習する。</p> <p>第5-10回 情報処理技術の知識 ネットワーク、データベース、情報システム開発、情報セキュリティなどを学習する。</p> <p>第11-15回 医療情報システム管理の知識 医療情報システム、医療記録の電子化、医療情報の標準化、医療情報の倫理などを学習する。</p>			
テキスト教材等	<p>参考書:『医療情報』医学医療編 第2版 篠原出版新社、『医療情報』情報処理技術編 第2版 篠原出版新社、『医療情報』医療情報システム編 第2版 篠原出版新社、『医療情報サブノート』篠原出版新社、『医療情報技師能力検定試験問題』篠原出版新社、キャサリン・ハンナ『看護情報学への招待』中山書店(2002)、『看護情報管理論』日本看護協会出版会</p>			
授業の形式	医療情報システム管理の基礎的な内容の講義の後、医療情報技師能力試験の出題などを例に演習を行い、問題点に討論を加えつつ情報管理の理解を深める。			
成績評価の方法	討議の内容(70%)とレポート(30%)で評価する。			
履修にあたっての留意点	4・5時限に実施する。ただ、4年次学生の実習と重なる期間は開講しない。 (「看護職とIT Literacy」奈良県立医科大学 藤田先生の講義を含む)			
備考	医療情報技師講習会の内容に準拠する。			